



つるが **ゆりかまめ**
yurikamome

観光ボランティアガイドつるが

【連絡先】

〒914-0051 福井県 敦賀市 港町 1-25
敦賀鉄道資料館 (旧敦賀港駅舎)
TEL・FAX 0770-21-0056
<http://www.turuga.org/index.html>
又はTEL 0770-22-8167 (敦賀観光協会)



『海を越えた鉄道～世界へつながる鉄道のキセキ～』として日本遺産に認定された旧北陸線のトンネル群。伊良谷トンネルから芦谷トンネルを通して曲谷トンネルを望む。

巻頭言

倉谷 長武

この令和2年は、新型コロナウイルスの感染拡大の恐怖におびえ、あらゆる行事や祭りが中止や延期さらに縮小に追い込まれ、また豪雨による被害が各地で起こりました。まことにやりきれない思いで半年が過ぎました。観光事業も直接間接の影響を受け、ガイドの活動も二月中頃を最後にオフアが途絶えました。九月からようやく再開しました。この間、これまでのガイドの活動を振り返り、学んだ知識をもう一度学び直す時期でもありました。

このたびは、滋賀福井の県境をまたがる旧北陸線を中心とした鉄道の諸遺産が『海を越えた鉄道』として日本遺産に認定されました。明治以降の港と鉄道を結び、北陸の大動脈として発展した北陸線、さらに海外への物流、文化の交流をもたらした「欧亜国際連絡列車」などのストーリーを大いに語りつたえ、観光振興と地域の活性化に寄与すべきチャンスの到来です。しこを踏んで準備を整え、やがて来る明るい時期を待ちたいと思います。明けない夜は無いのです。



ごあいさつ

人道の港 敦賀ムゼウム館長 西川明徳



皆さん、こんにちは。敦賀市観光部長 人道の港敦賀ムゼウム館長の西川明徳と申します。

11月3日(火・祝)に、いよいよ新しい「人道の港 敦賀ムゼウム」がオープンいたします。

金ヶ崎周辺施設整備基本計画に基づき、往時の税関旅具検査所等4棟を復元した躯体工事を昨年度末に完了し、従来のムゼウムのコンセプトを受け継ぎつつ、大幅に機能拡充した資料館として運営させていただきます。

新型コロナウイルス感染拡大への懸念が払拭されない状況にはありますが、新たな施設の運営を開始するに当たっての様々な課題等一つひとつ解決しながら、スタッフ一丸となって準備作業を進めてまいります。

敦賀のオンリーワンの地域資源である「人道の港」について誇りを持って内外に発信するとともに、来館者の皆さんに喜んでいただけるよう、ホスピタリティを重視して取り組んでまいりますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

INFORMATIONs

☆敦賀市立博物館特別展～「ふつうの系譜」おかえり展

現在、敦賀市立博物館では、「ふつうの系譜」おかえり展と称して、「ふつうの美しさ」をテーマとしたコレクション展が開催されています。これは今春、東京・府中市美術館で開催された「ふつうの系譜」展に敦賀市立博物館から出展された絵画作品などの「おかえり展」です。郷土ゆかりの画家をはじめ、狩野派、土佐派、円山四条派、岸派、原派、復古大和絵、そして近代京都画壇と、近世から近代にかけての京の美術が公開されています。



同館所蔵の美しい日本絵画を、ぜひこの機会にご覧ください。

日時/ 第3期：10月6日(火)～11月8日(日)

☆敦賀市立博物館企画展～「いわさきちひろ かるた原画展」

絵本作家いわさきちひろの童話かるたの原画を中心に、その他の現代作家の作品など絵画資料を展示。

日時/ 11月13日(金)～12月8日(火)

☆敦賀市民歴史講座～「元亀争乱から450年」

幾度も覇権争奪の戦禍を乗り越えた敦賀。元亀争乱を中心に各地に残る城跡などを手掛かりとして、戦国時代の敦賀と周辺地域の様相を探る企画です。

主催/ 気比史学会 日時/ 第3講：11月28日(土) 14時～ 場所/ きらめきみなと館
第4講：12月19日(土) 14時～ 場所/ 敦賀市立図書館3階(研修室)

編集後記

北陸新幹線の敦賀開業を目指して県内各地で工事が行われる中、金沢敦賀の区間の12本のトンネルのうち、最も敦賀駅に近い深山トンネルが8月3日に貫通しました。

一方、6月19日、文化庁は旧北陸線を中心とした鉄道の諸遺産を「日本遺産」に認定しました。この諸遺産には当時国内最長であった柳ヶ瀬トンネルや敦賀から今庄の間の12本のトンネル群も含まれています。

敦賀近郊には、最新技術で掘削された北陸新幹線のトンネル群が新幹線を待つ一方、明治時代のレンガ積みトンネルがあり、中でも現存する日本最古とされる小刀根トンネルは建設当時の姿のまま静かに佇んでいます。これらの日本遺産や活躍していたD51形蒸気機関車を訪ね、往時に思いを馳せるのは如何でしょうか。

(将)

ガイドの依頼・問合せ

ガイドの依頼及び問合せは、敦賀観光協会にて受け付けています。
0770-22-8167 (FAX 0770-22-8197)

なお、お申込み用紙をダウンロードされる場合は、以下のアドレス(観光協会ホームページ)にアクセスしていただき、観光協会宛てお送りください。
<http://www.turuga.org/index.html>

ガイド募集中

観光ボランティアガイドつるがは、随時メンバーを募集しています。敦賀のことをもっと知りたい方、もっと紹介したい方、人と接するのが好きな方、入会に制限はありませんので、以下までお気軽にお問い合わせ下さい。

①当会連絡先 0770-21-0056
②敦賀観光協会 0770-22-8167

「日本遺産」 鉄道のキセキ ①

6月19日、文化庁は、地域の有形・無形の文化財をテーマでまとめて観光振興などに繋げる「日本遺産」に、敦賀市、南越前町、滋賀県長浜市にまたがる旧北陸線沿いの鉄道遺産の魅力を伝えるストーリー『海を越えた鉄道』世界へつながる鉄道のキセキ』など21件を新たに認定した。「海を越えた鉄道」を観光スポットとして紹介するため、いくつかのポイントに焦点を当て紹介します。今回は小刀根トンネルです。

☆小刀根トンネル☆ 現存する日本最古の鉄道トンネル

敦賀市内から国道8号を滋賀方向に向かって約10キロ、刀根、杉箸に向かう分岐から県道を進み刀根トンネルを超えると真正面に小さなトンネルが見えてきます。小刀根トンネルです。

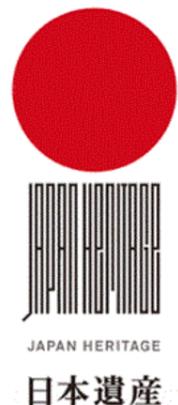
明治時代、新政府は大阪京都方面から日本海へつなぐ鉄道敷設を計画、長浜・敦賀間の鉄道敷設工事の一環として曾々木刀根、小刀根の3つのト



ンネルを建設し、開通したのは1882年（明治15年）でした。日本人技術者だけで造られたものとしては、京都と津間の逢坂山トンネル（明治13年竣工）に次いで古いトンネルと言われています。しかし、逢坂山

トンネルは新しいルートが開通したことで現存していません。また、曾々木トンネルは既に撤去、刀根トンネルは車道用に改変されており、建設当時のまま現存するのは小刀根トンネルだけです。

☆小刀根トンネルが機関車の大きさを決定した！
更にすごいのは、日本で最も量産されたD51形蒸気機関車の大きさがこの小刀根トンネルのサイズに合わせて設計製作されました。



写真のとおり断面を見ると上部が膨らんだ馬蹄形で、高さが4.72m、幅が4.27m、長さが56mのトンネルです。

内部は石積みとレンガ積み、一部は岩盤の露出部分もあり、当時の技術をそのまま伝えていきます。当時は現在のように掘削機などなく、手彫りで掘り進んだものと思われ

ます。大変な労力と時間を要したことでしよう。トンネル内部のレンガにはススが残り、煙を吐いて蒸気機関車が通過していた証に触られます。



（文責：倉谷長武）

☆ズームアップ☆
D51…D51形蒸気機関車は、1936年（昭和11年）から10年間に115両が製造されました。そして、製造された1号機、2号機が一番最初に配属されたのが敦賀機関区でした。旧北陸線の急な勾配線区で先頭に立つて活躍していました。D51形の愛称「デゴイチ」が蒸気機関車の代名詞となりました。

観光キャンペーン隊の市内研修

6月21日、観光ボランティアガイドつるがは、敦賀市の魅力を県内外に発信する「観光敦賀キャンペーン隊」の皆さんに市内研修を行いました。

当日の研修は、博物館通りをスタートして、金ヶ崎緑地、気比神宮、気比の松原など敦賀の代表的な観光スポットを約2時間30分で巡るハードな日程でしたが、暑い中皆さん大変熱心に取り組んでいました。

キャンぺーン隊の皆さんが観光客から敦賀の魅力を探ねられたときに、自信を持って答えることができるように、他にはない一番の見どころや、興味深いエピソードを中心に話をしました。



特に、「敦賀ムゼウム」では、ユダヤ人難民を迎え入れた敦賀の人の温かさに感動していました。キャンぺーン隊の皆さんには、インスタグラムなどを積極的に活用して、若者の視点から敦賀の魅力を発信し、敦賀をPRしていただきたいと思

（寺下雅裕）



敦賀の魅力を発信、PR！！ 「敦賀観光キャンペーン隊」の皆さん。

☆新ムゼウム開館☆

11月3日、新しい「人道の港 敦賀ムゼウム」が金ヶ崎緑地にオープンします。往時の税関旅具検査所等4棟を復元したもので、従来の「ムゼウム」のコンセプトを受け継ぎつつ、大幅に機能拡充した資料館になります。



☆ズームアップ☆

日本遺産…2015年度の認定開始から累計で104件となった。福井県関係の認定では、15年度の『御食国若狭と鯖街道』（県、小浜市、若狭町）、17年度の『北前船寄港地・船主集落』（敦賀市、南越前町、坂井市、小浜市など）と『日本六古窯』（越前町など）、19年度の『石から読み解く中世・近世のまちづくり』（県、福井市、勝山市）に次いで5件目。

今回の日本遺産の認定証（複製）が「鉄道資料館」に掲示されています。

